

令和 2 年度使用  
中学校教科用図書調査研究答申  
（「特別の教科 道徳」を除く）

山県教科用図書採択地区協議会

## 目 次

国 語	1
書 写	4
社会（地理的分野）	6
社会（歴史的分野）	8
社会（公民的分野）	10
地 図	12
数 学	13
理 科	21
音楽（一 般）	23
音楽（器楽合奏）	24
美 術	25
保健体育	27
技術・家庭（技術分野）	29
技術・家庭（家庭分野）	31
英 語	33

観点1	基礎・基本の定着
観点2	主体的に学習に取り組む工夫
観点3	内容の構成・配列・分量
観点4	内容の表現・表記
観点5	言語活動の充実

教科名	国語
第1推薦	38 光村
第2推薦	2 東書

(国語) 各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる観点	主たる特徴
2 東書	観点1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新出漢字を次のように示している。 脚注に行数, 音訓, 用例を示す。 巻末に, ページ数, 音訓, 部首, 画数, 筆順, 用例を示す。</li> <li>・巻末に「新出音訓一覧」として, ページ数, 新出音訓, 用例を示している。</li> </ul>
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「話すこと・聞くこと」「書くこと」を扱うページを上下2段に分け, 上段に学習の流れ, 下段に具体例などを提示している。</li> <li>・「話すこと・聞くこと」「書くこと」の教材の前に「学びの扉」を配置し, 直前の教材で学習したこととの関連を示している。</li> </ul>
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文, 「基礎編」「資料編」の3部構成で, 「資料編」に読み比べたり読み広げたりできる教材を掲載している。</li> <li>・「書くこと」の3年間合計ページ数が5発行者中で最も多い。</li> </ul>
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巻末の「学びを支える言葉の力」では, 言葉の力を「実用的な言葉の力」「論理的な言葉の力」「創造的な言葉の力」の3項目6種類に分類し, 学年に応じて系統的に示している。</li> <li>・1学年説明的な文章において文章と図表との関連について考えさせる教材は, 3教材19ページ掲載されている。図表等の種類は分布図などもあり5種類と多い。(数12)</li> </ul>
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「書くこと」の学習を1・2学年は6回, 3学年は4回設定し, 詩歌の創作やレポート, 批評文, 手紙, ミニ雑誌の編集などがある。</li> <li>・言語活動充実の手立てとして, 資料編に「話すこと・書くこと題材例」や「発想・整理の方法」の解説がある。</li> </ul>
11 学図	観点1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新出漢字を次のように示している。 脚注に行数と本文中の読みを示す。 教材末にページ数, 音訓, 用例を示す。</li> </ul>
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「話すこと・聞くこと」「書くこと」を扱うページを上下2段に分け, 主に上段に学習の流れ, 下段に学習の見通しや具体例などを, 図表を多用して提示している。</li> <li>・「話すこと・聞くこと」「書くこと」の教材の前または後に「活動を考える」を配置し, 教材で学習することとの関連を示している。</li> </ul>

	観点 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文、「言語の学習」「日本文学の流れ」「口語・文語活用対照表」の4部構成で、本文「読むこと」の学習では、第一教材・第二教材に続いて選択教材を掲載している。</li> <li>・「読むこと」、「伝統的な言語文化」、「言葉の特徴やきまり・漢字」の3年間合計ページ数がそれぞれ5発行者中で最も多い。</li> </ul>
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巻末に「古典に親しむために」として、全学年とも歴史的仮名遣い・文法・古語等の資料を掲載している。</li> <li>・1学年説明的な文章において文章と図表との関連について考えさせる教材は、3教材14ページ掲載されている。図表等の種類が2種類と少ない。(数10)</li> </ul>
	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「書くこと」の学習を各学年2回設定し、物語や詩、エッセイ、意見文やブックカバーを書く活動がある。</li> <li>・言語活動充実の手立てとして各単元の「読むこと」の作品の内容からつなげて、表現活動に係るコラム「活動を考える」を設定し、「話す・聞く」「書く」活動への準備としている。</li> </ul>
15 三省堂	観点 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新出漢字を次のように示している。 脚注に行数と本文中の読みを示す。 教材末にページ数、音訓、用例を示す。 巻末に、ページ数、音訓、部首、画数、筆順、用例を示す。</li> <li>・巻末に「〇年生で学ぶ音訓」として、ページ数、新出音訓を示している。</li> </ul>
	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「話すこと・聞くこと」「書くこと」を扱うページの脚注部分を広く取って学習の流れやポイントなどを提示し、具体例や学習活動の説明に、イラストや図表を多用している。</li> </ul>
	観点 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文と「資料編」の2部構成で、「資料編」に読み比べたり読み広げたりできる教材を掲載している。</li> <li>・「話すこと・聞くこと」の3年間合計ページ数が5発行者中で最も多い。</li> </ul>
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学ぶ力を高めよう」では、学びを深めるための手法を「さまざまな思考方法を使う」「メモを活用する」等の7つに分け、学年に応じて示している。</li> <li>・1学年説明的な文章において文章と図表との関連について考えさせる教材は、3教材17ページ掲載されている。図表等の数は少ない。(数8)</li> </ul>
	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「書くこと」の学習を1学年は5回、2学年は4回、3学年は3回設定し、レポート、行事案内リーフレット、地域情報誌、小論文などを書く活動がある。</li> <li>・言語活動充実の手立てとして、資料編「学ぶ力を高めよう」で、思考や調査、表現の方法について図を使って解説している。</li> </ul>
17 教出	観点 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新出漢字を次のように示している。 新出漢字が出た行の脚注に漢字のみを示し、本文中にルビをふる。 教材末にページ数、音訓、用例を示す。 巻末に、ページ数、音訓、部首、画数、筆順、用例を示す。</li> <li>・巻末に「〇年で読みを学習した漢字・語」として、ページ数、新出音訓を示している。</li> </ul>

	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「話すこと・聞くこと」「書くこと」では「学びの重点」を設定して各教材で身につけさせる学習内容を提示し、話し合い例や文章例の下部に「活動のポイント」を示している。</li> </ul>
	観点 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文と「資料編」の2部構成で、「資料編」に読み比べたり読み広げたりできる教材を掲載している。</li> <li>・「読むこと」の3年間合計ページ数が5発行者中で2番目に多い。</li> </ul>
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巻末の「学びのチャレンジ」では本文で学習したことを振り返り、さらに学習を進めるための課題を示している。</li> <li>・1学年説明的な文章において文章と図表との関連について考えさせる教材は、4教材21ページ掲載されている。図表等の数は最も多い。(数23)</li> </ul>
	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「書くこと」の学習を各学年5回設定し、図表を用いた報告や四コマ漫画から意見文を書く、広告を批評するなどの活動がある。</li> <li>・言語活動充実の手立てとして、「言葉の自習室」で、アイデアの出し方、インタビューの仕方などを説明している。</li> </ul>
38 光村	観点 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新出漢字を次のように示している。 脚注に行数と本文中の読みを示す。 教材末にページ数、音訓、用例を示す。 巻末に、ページ数、音訓、部首、画数、筆順、用例を示す。</li> <li>・巻末に「〇年生で学習した音訓」として、ページ数、新出音訓、用例を示している。</li> </ul>
	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「話すこと・聞くこと」「書くこと」を扱うページを上下2段に分け、上段に学習の流れ、下段に具体例などを提示している。</li> <li>・「話すこと・聞くこと」「書くこと」の学習活動は4つのステップで構成され、テーマを決めたり立場や根拠を考えたりする手順を示している。</li> </ul>
	観点 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2・3学年は、本文と「文法」「漢字に親しもう」「学習を広げる」の4部構成、1学年は「言葉に出会うために」を加えた5部構成で、「学習を広げる」に読み比べたり読み広げたりできる教材を掲載している。</li> <li>・「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「言葉の特徴やきまり・漢字」の3年間合計ページ数がそれぞれ5発行者中で2番目に多い。</li> </ul>
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巻末の「漢字に親しもう」では、小学校6学年で学んだ漢字（書き）の練習を問題形式で示している。また、巻末資料の折込は、文章を読むための基本的な学習用語をまとめている。</li> <li>・1学年説明的な文章において文章と図表との関連について考えさせる教材は、4教材23ページと最も多く掲載されている。図表等の種類が5種類と多い。(数19)</li> </ul>
	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「書くこと」の学習を1・2学年は5回、3学年は3回設定し、新入生へのメッセージを書く、職業ガイドを作る、修学旅行記を編集するなどの活動がある。また、書く内容を整理する方法や推敲などを、「練習」として各学年3回設定している。</li> <li>・言語活動充実の手立てとして、資料編で、表現活動のテーマ例や情報の収集方法などを解説している。</li> </ul>

観点1	基礎・基本の定着
観点2	主体的に学習に取り組む工夫
観点3	内容の構成・配列・分量
観点4	内容の表現・表記
観点5	言語活動の充実

教科名	書写
第1推薦	38 光村
第2推薦	2 東書

(書写) 各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる観点	主たる特徴
2 東書	観点1	・巻頭に毛筆，硬筆それぞれの正しい姿勢，鉛筆の持ち方，筆の持ち方，用具の置き方，墨のすり方，後片付け，構え方を，写真及びイラストで3ページにわたり示している。
	観点2	・学習の冒頭に目標と自分の課題を考えさせ，課題を解決するための練習→学習したことの他の文字への汎化→自己評価→日常生活への活用→発展的な学習という学習の進め方となっている。
	観点3	・巻末資料は35ページに渡り，日常生活に生かす内容や書写の歴史，伝統的な言語文化に関する内容が掲載されている。5発行者中で2番目に量が多い。
	観点4	・楷書の基本点画について写真で筆遣いを示すとともに送筆について擬音を入れて示している。 ・行書の動きのパターンを4つに整理し，文字のどの部分に動きのパターンが生かせるかを書き込ませるようになっている。
	観点5	・学習や日常生活と関連付けがなされた単元の数は，各学年とも5単元掲載されており，5発行者中で最も数が多い。
11 学図	観点1	・巻頭に毛筆，硬筆それぞれの正しい姿勢，筆の持ち方及び腕の構え方，墨のすり方，筆の各部の名称と働きの写真を1ページで示している。
	観点2	・試し書きによる課題設定→練習→まとめ書き→毛筆での学習をもとに硬筆での練習という学習の進め方となっている。
	観点3	・毛筆教材数が1学年8教材，2学年8教材，3学年4教材と，5発行者中で最も多い。
	観点4	・書き順を数字で示している。
	観点5	・3学年は，全単元を「書写を生活に生かそう」として，職場体験の礼状，年賀状，短冊，色紙，額等の作品作成を掲載している。
15 三省堂	観点1	・巻頭に毛筆の正しい姿勢，鉛筆の持ち方，筆の持ち方，用具の置き方，墨のすり方，片付け方について，写真及びイラストで，3ページにわたり示している。
	観点2	・「考えよう・話し合おう」として課題意識の確認→硬筆と毛筆で書いて確認→自己評価→学習のまとめとして硬筆教材での確認・定着→日常生活への活用という学習の進め方となっている。

	観点 3	・「書いて確かめよう」として、毛筆で学んだことを確認・定着させる硬筆記入欄が 22 ページと 5 発行者中で最も多く設けられている。
	観点 4	・行書の特徴を青の矢印、囲み、青字による書き込みで示している。また、筆脈を青の点線で示している。
	観点 5	・単元の終わりに「生活に生かそう」というページがあり、学習したことを日常の掲示物や記述の場面で活用させるようにしている。
17 教出	観点 1	・巻頭に毛筆の正しい姿勢、鉛筆、ボールペンの持ち方、筆の持ち方、用具の置き方、墨のすり方、後片付け、構え方、筆の各部分の名称について写真で 3 ページにわたり示している。
	観点 2	・硬筆や毛筆による「試し書き」→試し書きと教科書の文字の比較による自己課題の発見→毛筆の別の課題または硬筆課題での定着→「まとめ書き」で学習の定着の確認→自己評価→日常生活への活用という学習の進め方となっている。
	観点 3	・総ページ数が 1 学年 56 ページ、2 学年 40 ページ、3 学年 17 ページと、5 発行者中で最も多い。
	観点 4	・筆順や形の特徴、筆脈に加え、中心線を示している。
	観点 5	・全学年に「学習を生かして書く」が設定されているほか、学習や日常生活と関連付けがされた教材が多く掲載されている。
38 光村	観点 1	・巻頭に毛筆の正しい姿勢、鉛筆の持ち方、筆の持ち方、用具の置き方、後片付け、構え方について、写真で、2 ページにわたり示している。
	観点 2	・学習課題の確認→「学習の窓」による留意点の確認→練習と仕上げ→硬筆による学習の確認・定着→自己評価→次の学習に生かすという学習の進め方になっている。
	観点 3	・巻末資料は 50 ページに渡り、日常生活に生かす内容や書写の歴史、伝統的な言語文化に関する内容が掲載されている。5 発行者中で最も量が多い。
	観点 4	・薄墨と朱の二色で筆遣いを示し、行書の特徴を丸で囲み、赤の太字で書いている。
	観点 5	・「資料編」で日常生活での活用及び情報活用、図書館活用、学校行事への活用の教材を掲載している。

観点1	基礎・基本の定着
観点2	主体的に学習に取り組む工夫
観点3	内容の構成・配列・分量
観点4	内容の表現・表記
観点5	言語活動の充実

教科名	社会（地理的分野）
第1推薦	2 東書
第2推薦	1 1 6 日文

（社会 [地理的分野]）各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる観点	主たる特徴
2 東書	観点1	○地理学習の基礎的・基本的な技能を身に付けさせる「地理スキルアップ」「調査の達人」のコーナーを計36か所設けている。
	観点2	○作業的・体験的な学習事例を、36事例掲載している。
	観点3	○総ページ数301であり、世界の様々な地域41%、日本の様々な地域51%、その他8%で構成されている。
	観点4	○資料総数1092点であり、写真620点、絵図74点、地図218点、図表・グラフ180点である。
	観点5	○見開きごとの「確認」により、学習したことに対して「その理由を説明しましょう」「次の語句を使って説明しましょう」など、説明を求める課題を多く掲載している。
1 7 教出	観点1	○地図やグラフなどの見方を確かめさせる「地理にアプローチ」のコーナーを16か所設けている。
	観点2	○作業的・体験的な学習事例を、22事例掲載している。
	観点3	○総ページ数287であり、世界の様々な地域40%、日本の様々な地域49%、その他11%で構成されている。
	観点4	○資料総数831点であり、写真460点、絵図30点、地図209点、図表・グラフ132点である。
	観点5	○見開きごとの「ふりかえる」により、「ステップ1」で学習したことを振り返って確認し、「ステップ2」で学習したことを活用して表現する課題を掲載している。
4 6 帝国	観点1	○地理の基礎的な技能を身に付けさせる「技能をみがく」のコーナーを25か所設けている。
	観点2	○作業的・体験的な学習事例を、25事例掲載している。
	観点3	○総ページ数289であり、世界の様々な地域41%、日本の様々な地域54%、その他5%で構成されている。
	観点4	○資料総数1016点であり、写真560点、絵図84点、地図182点、図表・グラフ190点である。



	観点5	○見開きごとの「確認しよう」「説明しよう」により、「確認しよう」では、本文の中から大切な事項を書き出す課題を、「説明しよう」では、学習したことをふまえ、自分の言葉で説明する課題を掲載している。
116 日文	観点1	○地理学習に必要な技能を習得させるため、「スキル up」のコーナーを37か所、「言語活動」のコーナーを42か所設けている。
	観点2	○作業的・体験的な学習事例を、37事例掲載している。
	観点3	○総ページ数289であり、世界の様々な地域39%、日本の様々な地域54%、その他7%で構成されている。
	観点4	○資料総数915点であり、写真516点、絵図56点、地図191点、図表・グラフ152点である。
	観点5	○見開きごとの「学習の確認と活用」により、「確認」では、学習の理解を確かにし、「活用」では、知識を活用して考えを深めたり、現実の問題に取り組んだりする問いかけを掲載している。

観点1	基礎・基本の定着
観点2	主体的に学習に取り組む工夫
観点3	内容の構成・配列・分量
観点4	内容の表現・表記
観点5	言語活動の充実

教科名	社会（歴史的分野）
第1推薦	1 1 6 日文
第2推薦	2 東書

（社会科 [歴史的分野]）各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる観点	主たる特徴
2 東書	観点1	○国際関係や文化交流に関するコラムが21点あり、古代1点、中世2点、近世3点、近代8点、現代7点の内訳である。
	観点2	○「時代や年代を読み取ろう」「歴史地図をみてみよう」など作業的・体験的な学習の具体例を17事例掲載している。
	観点3	○各大項目に、「深めよう」というコーナーを設け、本文の学習と関連のある読み物として扱っている。（「現代に受け継がれる神話」等、事例数13）
	観点4	○写真・絵図128点、地図18点、図表グラフ23点、年表3点、合計172点
	観点5	○章末などでイラストマップや年表など11種の方法でまとめさせる活動がある。
17 教出	観点1	○国際関係や文化交流に関するコラムが22点あり、古代1点、中世1点、近世6点、近代8点、現代6点の内訳である。
	観点2	○「干支や単位・資料を活用しよう」「郷土の歴史を探ろう」など、作業的・体験的な学習の具体例を9事例掲載している。
	観点3	○各大項目に、「(資料・人物と地域・地域・世界)から歴史を探ろう」というコーナーを設け、本文の学習と関連のあるテーマを読み物として扱っている。（「木簡が語る人々の暮らし」等、事例数20）
	観点4	○写真・絵図112点、地図13点、図表グラフ20点、年表3点、合計148点
	観点5	○章末などで、キャッチフレーズや仮想の討論会など7種の方法でまとめさせる活動がある。
35 清水	観点1	○国際関係や文化交流に関するコラムが24点あり、古代8点、中世2点、近世7点、近代7点、現代0点の内訳である。
	観点2	○「資料を読み取ろう」「人物を調べてみよう」など、作業的・体験的な学習の具体例を6事例掲載している。
	観点3	○各大項目に、「もっと知りたい歴史」「歴史のとびら」というコーナーを設け、本文の学習と関連のあるテーマを扱っている。（「植物と日本人」等、事例数14）
	観点4	○写真・絵図146点、地図18点、図表グラフ22点、年表3点、合計189点
	観点5	○章末などで、パワーポイントやレポートなど9種の方法でまとめさせる活動がある。
46 帝国	観点1	○国際関係や文化交流に関する小コラムが52点あり、古代7点、中世4点、近世7点、近代23点、現代11点の内訳である。
	観点2	○「身近な地域にひそむ歴史を探ろう」「情報の集め方」など、作業的・体験的な学習の具体例を12事例掲載している。

	観点3	○各大項目の、「歴史を探ろう」や2か所に設定した「トライアル歴史」というコーナーで、本文の学習と関連のあるテーマを読み物として扱っている。（「古墳からわかる当時のようす」等、事例数13）
	観点4	○写真・絵図168点、地図23点、図表グラフ23点、年表5点、合計219点
	観点5	○章末などで、手紙や関係図・流れ図など14種の方法でまとめさせる活動がある。
116 日文	観点1	○国際関係や文化交流に関するコラムが28点あり、古代4点、中世2点、近世4点、近代12点、現代6点の内訳である。
	観点2	○「系図の見方」「草戸千軒町遺跡を調べる」など、作業的・体験的な学習の具体例を7事例掲載している。
	観点3	○各大項目に、「先人に学ぶ」「歴史を掘り下げる」というコーナーを設け、本文の学習と関連のあるテーマを読み物として扱っている。（「日本の食生活のルーツを探る」等、事例数18）
	観点4	○写真・絵図144点、地図26点、図表グラフ31点、年表6点、合計207点
	観点5	○章末などで、表や歴史新聞など5種の方法でまとめさせる活動がある。
225 自由社	観点1	○国際関係や文化交流に関するコラムが38点あり、古代6点、中世2点、近世5点、近代20点、現代5点の内訳である。
	観点2	○「〇〇の歴史を調べる」「人物を通して時代をとらえる」など、作業的・体験的な学習の具体例を3事例掲載している。
	観点3	○各大項目に、「もっと知りたい」というコラムを設けている。（「岩宿遺跡を発見した相沢忠洋」等、事例数35）
	観点4	○写真・絵図83点、地図12点、図表グラフ9点、年表1点、合計105点
	観点5	○章末などで、「ひとこと」作文やスピーチなど12種の方法でまとめさせる活動がある。
227 育鵬社	観点1	○国際関係や文化交流に関するコラムが34点あり、古代5点、中世2点、近世6点、近代17点、現代4点の内訳である。
	観点2	○「歴史人物Q&Aカードをつくろう」「城を探検してみよう」など、作業的・体験的な学習の具体例を7事例掲載している。
	観点3	○各大項目に、「このころ世界は」「歴史ズームイン」等のコーナーを設け、本文の学習と関連のあるテーマを扱っている。（「ローマ帝国と日本の古墳時代」等、事例数26）
	観点4	○写真・絵図142点、地図17点、図表グラフ23点、年表3点、合計185点
	観点5	○章末などで、歴史人物Q&Aカード作りや、ロールプレイなど6種の方法でまとめさせる活動がある。
239 学び舎	観点1	○国際関係や文化交流に関するコラムが44点あり、古代5点、中世6点、近世6点、近代16点、現代11点の内訳である。
	観点2	○「歴史を楽しく学ぼう」「一人ひとりの歴史・家族の歴史」など、作業的・体験的な学習の具体例を10事例掲載している。
	観点3	○各大項目に、「歴史を体験する」というコーナーを設け、本文の学習と関連のあるテーマでの体験学習を紹介している。また、歴史的事象との出会いの場面として巻頭の「歴史への案内」というコーナーを設定している。（「火と人類の歴史をさぐる」等、事例数6）
	観点4	○写真・絵図163点、地図21点、図表グラフ13点、年表1点、合計198点
	観点5	○章末などで、ポスターや人物カードなど8種の方法でまとめさせる活動がある。

観点1	基礎・基本の定着
観点2	主体的に学習に取り組む工夫
観点3	内容の構成・配列・分量
観点4	内容の表現・表記
観点5	言語活動の充実

教科名	社会（公民的分野）
第1推薦	1 1 6 日文
第2推薦	2 東書

（社会科 [公民的分野]）各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる観点	主たる特徴
2 東書	観点1	○「対立と合意」「効率と公正」に関する具体例が4点掲載されている。
	観点2	○作業的・体験的な学習が25事例掲載されている。
	観点3	○総ページ数253であり、現代社会11%、経済20%、政治33%、国際社会18%、その他18%で構成されている。 ○発展的な学習を28事例掲載している。
	観点4	○「私たちと政治」における資料の総掲載数260点（絵図81点、写真100点、地図4点、表・グラフ60点、新聞12点、年表3点） ○見開きごとに「確認」のコーナーを設けている。
	観点5	○単元末に「この章の学習を確認しよう」を設け、学んだことや考えたことを表現させる課題を掲載している。
17 教出	観点1	○「対立と合意」「効率と公正」に関する具体例が5点掲載されている。
	観点2	○作業的・体験的な学習が7事例掲載されている。
	観点3	○総ページ数255であり、現代社会9%、経済23%、政治33%、国際社会15%、その他20%で構成されている。 ○発展的な学習を12事例掲載している。
	観点4	○「私たちと政治」における資料の総掲載数241点（絵図63点、写真102点、地図4点、表・グラフ61点、新聞7点、年表4点） ○見開きごとに「ふりかえる」のコーナーを設けている。
	観点5	○単元末に「学習のまとめと表現」を設け、用語を使って説明させたり資料を用いて考えさせたりする課題を掲載している。
35 清水	観点1	○「対立と合意」「効率と公正」に関する具体例が2点掲載されている。
	観点2	○作業的・体験的な学習が23事例掲載されている。
	観点3	○総ページ数229であり、現代社会8%、経済27%、政治32%、国際社会12%、その他21%で構成されている。 ○発展的な学習を23事例掲載している。
	観点4	○「私たちと政治」における資料の総掲載数260点（絵図81点、写真100点、地図4点、表・グラフ60点、新聞12点、年表3点） ○見開きごとに「調査」のコーナーを設けている。
	観点5	○単元末に「次のことばについて説明しよう」を設け、学んだ用語を説明させる課題を掲載している。

46 帝国	観点1	○「対立と合意」「効率と公正」に関する具体例が2点掲載されている。
	観点2	○作業的・体験的な学習が15事例掲載されている。
	観点3	○総ページ数241であり、現代社会12%、経済25%、政治31%、国際社会17%、その他15%で構成されている。 ○発展的な学習を12事例掲載している。
	観点4	○「私たちと政治」における資料の総掲載数217点（絵図71点、写真83点、地図1点、表・グラフ49点、新聞13点、年表0点） ○見開きごとに「確認しよう」「説明しよう」というコーナーを設けている。
	観点5	○単元末に「学習をふりかえろう」を設け、資料を見て、読み取ったことや予想したことを表現させる課題を掲載している。
116 日文	観点1	○「対立と合意」「効率と公正」に関する具体例が6点掲載されている。
	観点2	○作業的・体験的な学習が17事例掲載されている。
	観点3	○総ページ数263であり、現代社会12%、経済21%、政治33%、国際社会16%、その他18%で構成されている。 ○発展的な学習を30事例掲載している。
	観点4	○「私たちと政治」における資料の総掲載数271点（絵図98点、写真95点、地図6点、表・グラフ51点、新聞17点、年表4点） ○見開きごとに「学習の確認と活用」というコーナーを設けている。
	観点5	○単元末に「学習の整理と活用」を設け、学習内容と語句の整理をさせるとともに、「合意を考えるための問題」を掲載している。
25 自由社	観点1	○「対立と合意」「効率と公正」に関する具体例が2点掲載されている。
	観点2	○作業的・体験的な学習が2事例掲載されている。
	観点3	○総ページ数237であり、現代社会15%、経済15%、政治30%、国際社会22%、その他18%で構成されている。 ○発展的な学習を21事例掲載している。
	観点4	○「私たちと政治」における資料の総掲載数121点（絵図43点、写真58点、地図1点、表・グラフ19点、新聞0点、年表0点） ○見開きごとに「ここがポイント」というコーナーを設けている。
	観点5	○単元末に「学習のまとめと発展」を設け、400字でまとめる課題を設定している。
227 育鵬社	観点1	○「対立と合意」「効率と公正」に関する具体例が2点掲載されている。
	観点2	○作業的・体験的な学習が11事例掲載されている。
	観点3	○総ページ数253であり、現代社会13%、経済20%、政治31%、国際社会18%、その他18%で構成されている。 ○発展的な学習を18事例掲載している。
	観点4	○「私たちと政治」における資料の総掲載数236点（絵図90点、写真91点、地図2点、表・グラフ33点、新聞19点、年表1点） ○見開きごとに、学習内容を確認したり理解したりするための課題が設定されている。
	観点5	○単元末に「学習のまとめ」を設け、資料を使って内容を確認する課題や具体的な施策等について考えさせる課題を設定している。

山県教科用図書採択地区選定委員会

観点1	基礎・基本の定着
観点2	主体的に学習に取り組む工夫
観点3	内容の構成・配列・分量
観点4	内容の表現・表記
観点5	言語活動の充実

教科名	地図
第1推薦	46 帝国
第2推薦	2 東書

(地図) 各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる観点	主たる特徴
2 東書	観点1	○「この地図の活用方法」を巻頭に設けて、この地図帳の使い方を記載している。 ○「注目したい記号」を記載し、読図の着眼点を示している。
	観点2	○資料についての理解を促し、考察を深められるように読図のポイントや考察の視点を示したキャラクターの吹き出しを記載している。
	観点3	○総ページ数183であり、世界の資料図7%、世界の諸地域30%、日本の諸地域32%、日本の資料図14%、統計5%、その他12%で構成されている。
	観点4	○世界全図は赤道上の距離で、広域地図・大陸地図を3500万分の1～6000万分の1、各州地図を1500万分の1～3000万分の1、日本全体は550万分の1、日本の各地方は100万分の1、日本の特定地域の拡大図は50万分の1、南西諸島は550万分の1の縮尺で示されている。
	観点5	○読図のポイントや考察の視点を示したキャラクターの吹き出しを19か所設けている。
46 帝国	観点1	○「この地図帳の使い方」を巻頭に設けて、この地図帳の使い方を記載している。 ○地図を見る上での着眼点を示した「地図を見る目」を記載している。
	観点2	○地図を見る上での着眼点を示した「地図を見る目」、地図から読み取る学習活動や言語活動を促す「やってみよう」を記載している。
	観点3	○総ページ数176であり、地図の使い方と世界の資料図9%、世界の諸地域32%、日本の諸地域36%、日本の資料図10%、統計5%、その他8%で構成されている。
	観点4	○世界全図は11600万分の1、広域地図・大陸地図は3500万分の1～6000万分の1、各州地図は1600万分の1～3000万分の1、日本全体は400万分の1、日本の各地方は100万分の1、日本の特定地域の拡大図は50万分の1、南西諸島は400万分の1の縮尺で示されている。
	観点5	○地図から読み取る学習活動や言語活動を促す「やってみよう」を47か所設けている。

観点1	基礎・基本の定着
観点2	主体的に学習に取り組む工夫
観点3	内容の構成・配列・分量
観点4	内容の表現・表記
観点5	言語活動の充実

教科名	数学
第1推薦	1 1 学図
第2推薦	2 東書

(数学) 各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる観点	主たる特徴
2 東書	観点1	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学習内容の導入で、既習事項の復習(Qマーク)を提示し、学習の手がかりになる問いかけを示している。</li> <li>「ちょっと確認」で、これまでの学んだ内容を確認できるようにしている。</li> <li>「まちがい例」を示し、誤りを指摘し、正す活動を促している。</li> <li>例題と問の間に「たしかめ」を配置して、内容の定着を図る問題を示している。</li> <li>「補充の問題」として巻末の「補充の問題」の頁、問題番号を記し、学習内容の定着を図る問題を示している。</li> </ul>
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> <li>「数学的活動(Q)」や「やってみよう」で、数学や身近なことがらに活用する内容や、学習したことや自分の考えを、深めたり広げたり、説明したりする内容が取り上げてあり、問題解決的な学習に主体的に取り組めるようにしてある。</li> <li>○巻末及び別冊の問題数(各単元の学習を活用する問題、複数の単元や領域の学習を総合的に活用する問題、生活の中で活用する問題、興味・関心や習熟に応じた問題等) <ul style="list-style-type: none"> <li>1年 34, 2年 36, 3年 54, 合計 124</li> </ul> </li> <li>○ヒントやポイントを示した吹き出し等の数(1年「平面図形」, 2年「三角形や平行四辺形の基本的な性質」, 3年「図形の相似」) <ul style="list-style-type: none"> <li>1年 6, 2年 4, 3年 6, 合計 16</li> </ul> </li> </ul>
	観点3	<p>(構成・配列)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3年2次方程式の解法が「平方根の考え」→「解の公式」→「因数分解」の配列になっている。(分量) 1年ページ数230P, 2年ページ数180P, 3年ページ数217P</li> </ul>
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> <li>イラスト, 写真の数と具体例 <ul style="list-style-type: none"> <li>2年「1次関数」 <ul style="list-style-type: none"> <li>○イラスト数 11 <ul style="list-style-type: none"> <li>円柱の形をした水槽に、深さ3cmのところまで水が入っていて、1分間に深さが2cmずつ増加する図</li> <li>台形ABCDの上底と下底をそれぞれ動点P, Qが動くときの4点A, B, Q, Pを結んでできる図形の変化の図など</li> </ul> </li> <li>○写真数 6 <ul style="list-style-type: none"> <li>東京都文京区の道路標識 ・河口湖と富士山</li> <li>カーフェリーとジェットフォイル ・国営昭和記念公園</li> <li>時刻表 ・福岡県内を走る電車</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>

	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数学的な表現を用いて自分の考えを説明し伝え合う活動ができるように工夫している。</li> </ul> <p>&lt;具体例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○2年「文字式の利用」</li> </ul> <p>カレンダーの数をいろいろに囲んで、囲んだ数の和の性質を見つけ、その性質が成り立つわけを説明し伝え合う活動ができるようにしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノート指導やレポート作成の扱い、記載例、記述ページ数について</li> </ul> <p>&lt;扱い&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年の巻頭の「数学の学習の進め方」で、ノートのかき方を扱っている。また、その具体例として単元途中に「数学マイノート」のページを設け、生徒のノートを例示し、書き方の工夫や学習の感想について扱っている。また、「マイノートプラス」で数学的な表現を書くときの注意や工夫がある。</li> <li>○「レポートにまとめよう」として、書き方を説明している。</li> </ul> <p>&lt;記述ページ数&gt;</p> <table border="0"> <tr> <td>1年</td> <td>ノート</td> <td>7 P</td> <td>レポート</td> <td>5 P</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>ノート</td> <td>6 P</td> <td>レポート</td> <td>2 P</td> </tr> <tr> <td>3年</td> <td>ノート</td> <td>7 P</td> <td>レポート</td> <td>3 P</td> </tr> </table>	1年	ノート	7 P	レポート	5 P	2年	ノート	6 P	レポート	2 P	3年	ノート	7 P	レポート	3 P
1年	ノート	7 P	レポート	5 P													
2年	ノート	6 P	レポート	2 P													
3年	ノート	7 P	レポート	3 P													
4 大日本	観点 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学習内容の導入で、(?マーク)学習をはじめの手がかりになる問いかけを示している。</li> <li>・「プラスワン」を「Q」の後に配置し、さらに練習するための問題を示している。</li> <li>・「どこがちがう？」で誤った例を示し、誤りについて説明する活動を促している。</li> <li>・「思い出そう」として、これまでの学習等を振り返る問題や解き方を示している。</li> </ul>															
	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ハートマーク」、「挑戦しよう」(活用の問題)、「もっと数学！」(発展的な学習)で、学習したことを深めたり、調べたりする内容が取り上げてあり、問題解決的な学習に主体的に取り組めるようにしてある。</li> </ul> <p>○巻末及び別冊の問題数(各単元の学習を活用する問題、複数の単元や領域の学習を総合的に活用する問題、生活の中で活用する問題、興味・関心や習熟に応じた問題等)</p> <p>1年 41, 2年 50, 3年 94, 合計 185</p> <p>○ヒントやポイントを示した吹き出し等の数(1年「平面図形」、2年「三角形や平行四辺形の基本的な性質」、3年「図形の相似」)</p> <p>1年 3, 2年 6, 3年 6, 合計 15</p>															
	観点 3	<p>(構成・配列)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年2次方程式の解法が「因数分解」→「平方根の考え」→「解の公式」の配列になっている。(分量) 1年ページ数259 P, 2年ページ数196 P, 3年ページ数238 P</li> </ul>															



	<p>観点4</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イラスト、写真の数と具体例 2年「1次関数」</li> <li>○イラスト数 16 <ul style="list-style-type: none"> <li>・水がいくらか入っている深さが25cmの円柱の容器に一定の割合で水を入れる図</li> <li>・マッチ棒を使って正方形をつくる図 など</li> </ul> </li> <li>○写真数 6 <ul style="list-style-type: none"> <li>・由布院駅</li> <li>・長方形の紙を折る様子</li> <li>・二等辺三角形をつくっている様子</li> <li>・公園</li> <li>・ガスバーナーを用いて水を熱している様子</li> <li>・上越長野新幹線の時刻表</li> </ul> </li> </ul>															
	<p>観点5</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数や図形の性質を予想し、数学的な表現を用いて説明し伝え合う活動ができるように工夫している。</li> <li>&lt;具体例&gt;</li> <li>○2年「文字式の利用」 A+Bはどんな数の倍数になるかを予想し、予想したことを文字を使って説明し伝え合う活動ができるようにしている。</li> <li>・ノート指導やレポート作成の扱い、記述ページ数について</li> <li>&lt;扱い&gt;</li> <li>○各学年の巻頭で「ノートのつくり方」を示している。</li> <li>○巻末に、特設ページ「レポートを書こう」を扱い、研究の仕方や書き方の工夫について説明し、生徒のレポートを例示している。</li> <li>&lt;記述ページ数&gt;</li> <table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">1年</td> <td style="width: 20%;">ノート</td> <td style="width: 10%;">1P</td> <td style="width: 20%;">レポート</td> <td style="width: 10%;">3P</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>ノート</td> <td>1P</td> <td>レポート</td> <td>2P</td> </tr> <tr> <td>3年</td> <td>ノート</td> <td>1P</td> <td>レポート</td> <td>3P</td> </tr> </table> </ul>	1年	ノート	1P	レポート	3P	2年	ノート	1P	レポート	2P	3年	ノート	1P	レポート	3P
1年	ノート	1P	レポート	3P													
2年	ノート	1P	レポート	2P													
3年	ノート	1P	レポート	3P													
<p>11 学図</p>	<p>観点1</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学習内容の導入で、(Qマーク)これから学習することがらの手がかりになる問いかけを示している。</li> <li>・「正しいかな？」で間違いを正す活動を促している。</li> <li>・「ふりかえり」として、これまでの学習等を振り返る問題や解き方を示している。</li> <li>・「計算の復習」を設定し、類型別に問題配列し、巻末に解答を掲載し、家庭学習でも活用できるようにしている。</li> </ul>															
	<p>観点2</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習をまとめたり、生徒自身の問いを示したりする箇所を設け、学習のつながりを意識できるようにしてある。「トライ」や「深めよう」で、学習したことがらをより深めたり広げたりするための内容が取り上げてあり、問題解決的な学習に主体的に取り組めるようにしてある。</li> <li>○巻末及び別冊の問題数(各単元の学習を活用する問題、複数の単元や領域の学習を総合的に活用する問題、生活の中で活用する問題、興味・関心や習熟に応じた問題等)</li> <li>1年 51, 2年 44, 3年 50, 合計 145</li> <li>○ヒントやポイントを示した吹き出し等の数(1年「平面図形」、2年「三角形や平行四辺形の基本的な性質」、3年「図形の相似」)</li> <li>1年 8, 2年 5, 3年 7, 合計 20</li> </ul>															
	<p>観点3</p>	<p>(構成・配列)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年2次方程式の解法が「因数分解」→「平方根の考え」→「解の公式」の配列になっている。(分量)1年ページ数249P, 2年ページ数186P, 3年ページ数238P</li> </ul>															

	<p>観点4</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イラスト、写真の数と具体例 2年「1次関数」</li> <li>○イラスト数 7</li> <li>・14 cmの線香が一定の割合で短くなる図</li> <li>・底辺が4 cm，高さが3cmの直角三角形の周上を点Pが動くときの△PBCの形が変化する様子 など</li> <li>○写真数 9</li> <li>・沖縄県の玉泉洞 ・鍾乳石の様子 ・ジェット機の離陸 ・勾配の道路標識</li> <li>・千葉県立館山 野鳥の森のスロープ ・ビーカーで水を熱する様子</li> <li>・80℃の湯を冷ます様子 ・列車のダイヤグラム ・新車</li> </ul>												
	<p>観点5</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容を振り返り，数学的活動のよさについて考え，その考えを伝え合う活動ができるように工夫している。</li> <li>&lt;具体例&gt;</li> <li>○2年「文字式の利用」 「連続する3つの整数」，「2桁の自然数」，「偶数，奇数」，「3の倍数」などは文字を使ってどのように表すことができるか，文字式を使った説明のよさについて考え，そのよさを伝え合う活動ができるようにしている。</li> <li>・ノート指導やレポート作成の扱い，記述ページ数について</li> <li>&lt;扱い&gt;</li> <li>○各学年の巻頭で「ノートの使い方」を示している。また，単元中にノートを書く際に気をつける点，よりよい書き方などを同時に示している。</li> <li>○各学年の巻頭に「レポートにまとめて発表しよう」で説明してあり，巻末では生徒のレポートを例示し，書き方を説明している。</li> <li>&lt;記述ページ数&gt;</li> <table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-right: 20px;">1年 ノート</td> <td style="padding-right: 20px;">5 P</td> <td style="padding-right: 20px;">レポート</td> <td>7 P</td> </tr> <tr> <td>2年 ノート</td> <td>4 P</td> <td>レポート</td> <td>6 P</td> </tr> <tr> <td>3年 ノート</td> <td>5 P</td> <td>レポート</td> <td>7 P</td> </tr> </table> </ul>	1年 ノート	5 P	レポート	7 P	2年 ノート	4 P	レポート	6 P	3年 ノート	5 P	レポート	7 P
1年 ノート	5 P	レポート	7 P											
2年 ノート	4 P	レポート	6 P											
3年 ノート	5 P	レポート	7 P											
<p>17 教出</p>	<p>観点1</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学習内容の導入で，「学習する前に」では，次の学習のきっかけとなる問題を示している。</li> <li>・「基本のたしかめ」として，学習内容の定着を図る問題を示している。</li> <li>・「×まちがい」で誤った例を示し，誤りを指摘したり，正しくしたりする活動を促している。</li> <li>・「補充問題」として，巻末の「くり返し練習」の頁，問題番号を記し，学習内容の定着を図る問題を示している。</li> </ul>												
	<p>観点2</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「チャレンジコーナー」，「数学の広場」，「ジャンプ」（発展）で，学習したことを活用したり，学習内容を深めたり広げたり，調べたりする内容が取り上げてあり，興味・関心に応じて主体的に取り組めるようにしている。</li> <li>○巻末及び別冊の問題数（各単元の学習を活用する問題，複数の単元や領域の学習を総合的に活用する問題，生活の中で活用する問題，興味・関心や習熟に応じた問題等） 1年 32，2年 31，3年 45，合計 108</li> <li>○ヒントやポイントを示した吹き出し等の数（1年「平面図形」，2年「三角形や平行四辺形の基本的な性質」，3年「図形の相似」） 1年 5，2年 9，3年 5，合計 19</li> </ul>												

	<p>観点3</p> <p>観点4</p> <p>観点5</p>	<p>(構成・配列)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年2次方程式の解法が「因数分解」→「平方根の考え」→「解の公式」の配列になっている。 (分量) 1年ページ数272P, 2年ページ数203P, 3年ページ数244P</li> </ul> <p>・イラスト, 写真の数と具体例 2年「1次関数」 ○イラスト数 12</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・深さが20cmの水槽にはじめに, 5cmの高さまで水が入った水槽に, 1分間に2cmの割合で水を入れる図</li> <li>・底が階段状になっている水槽に, 一定の割合で水を入れる図 など</li> </ul> <p>○写真数 3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄道のダイヤ</li> <li>・ビーカーで水を熱している様子</li> <li>・学校や駅などのスロープ</li> </ul> <p>・新たな規則や性質を見つけ発展させる, 日常生活や社会で数学を利用する, 筋道を立てて自分の考えを説明し伝え合う, この3つの視点を意識した学習活動が取り入れられている。</p> <p>&lt;具体例&gt;</p> <p>○2年「式の活用」 連続する3つの整数の和は3の倍数になる説明を, 例示されている生徒の考え方を説明したり, それぞれの考え方のよさについて話し合ったりすることで, 伝え合う活動ができるようにしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノート指導やレポート作成の扱い, 記述ページ数について</li> </ul> <p>&lt;扱い&gt;</p> <p>○各単元の各章末問題に, 「この章の学習をふりかえりノートにまとめましょう。」の設問がある。また, 各学年の巻頭で「ノートの工夫」を示している。また, 第1学年2章には, アルファベットの筆記体を示している。</p> <p>○第1学年「資料の活用」でレポートを例示し, かき方を説明している。調査したことをレポートにまとめた具体例がある。</p> <p>&lt;記述ページ数&gt;</p> <table border="0"> <tr> <td>1年</td> <td>ノート</td> <td>10P</td> <td>レポート</td> <td>4P</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>ノート</td> <td>8P</td> <td>レポート</td> <td>0P</td> </tr> <tr> <td>3年</td> <td>ノート</td> <td>10P</td> <td>レポート</td> <td>0P</td> </tr> </table>	1年	ノート	10P	レポート	4P	2年	ノート	8P	レポート	0P	3年	ノート	10P	レポート	0P
1年	ノート	10P	レポート	4P													
2年	ノート	8P	レポート	0P													
3年	ノート	10P	レポート	0P													
<p>61 啓林館</p>	<p>観点1</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学習内容の導入で, 「ひろげよう」として, 学習の手がかりになる問いかけを示している。</li> <li>・「ふりかえり」として, これまでに学んだ関連することがらを示している。</li> <li>・項末に「練習問題」として, 学習内容の定着を図る問題を示している。</li> <li>・「問」の横に, 巻末の「力をつけよう」の頁, 問題番号を記し, 学習内容の定着を図る問題を示している。</li> <li>・「×誤答例」を示し, 誤りを指摘したり, 正しくしたりする活動を促している。</li> </ul>															

	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「身のまわりへひろげよう」で身のまわりの問題を解決する場面を取り上げ、巻末の「数学の広場」で数学を活用する問題を取り上げており、興味・関心に応じて、問題解決的な学習に主体的に取り組めるようにしてある。</li> <li>○巻末及び別冊の問題数（各単元の学習を活用する問題、複数の単元や領域の学習を総合的に活用する問題、生活の中で活用する問題、興味・関心や習熟に応じた問題等） 1年 31, 2年 41, 3年 48, 合計 120</li> <li>○ヒントやポイントを示した吹き出し等の数（1年「平面図形」、2年「三角形や平行四辺形の基本的な性質」、3年「図形の相似」） 1年 6, 2年 5, 3年 6, 合計 17</li> </ul>															
	観点 3	<p>（構成・配列）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年2次方程式の解法が「平方根の考え」→「解の公式」→「因数分解」の配列になっている。（分量）1年ページ数225P, 2年ページ数167P, 3年ページ数217P</li> </ul>															
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イラスト, 写真の数と具体例 2年「1次関数」 ○イラスト数 10</li> <li>・気温が地上から10kmまでは、高度が1km増すごとに6℃ずつ低くなる熱気球の図</li> <li>・100m進むと10m上る坂であることを示す道路標識の図など ○写真数 2</li> <li>・稲光の様子      ・ガスバーナーで水を熱している様子</li> </ul>															
	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容を振り返り、数学的活動のよさについて考え、その考えを伝え合う活動を取り入れている。</li> </ul> <p>&lt;具体例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○2年「文字式の利用」 2桁の正の整数と、その数の十の位の数と一の位の数を入れかえてできる数との和は、11の倍数になる。この問題で和を差にかえると、どんなことがいえるか文字式を使って説明するよさについて考え、そのよさを伝え合う活動ができるようにしている。</li> <li>・ノート指導やレポート作成の扱い、記述ページ数について</li> </ul> <p>&lt;扱い&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年の巻頭の「ノートを工夫して、学習に役立てよう」でノートのかき方を扱っている。また第1学年2章末に、「この章の学習を終えて、わかったことや気づいたことなどをまとめておきましょう。」という設問がある。また、巻末に教科書で使われているアルファベットと筆記体を示している。</li> <li>○第1学年「資料の活用」でレポートを例示し、かき方を説明している。調査したことをレポートにまとめた具体例がある。また、各学年の別冊 MathNavi では、レポートの具体例を示している。</li> </ul> <p>&lt;記述ページ数&gt;</p> <table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">1年</td> <td style="width: 30%;">ノート</td> <td style="width: 10%;">4P</td> <td style="width: 10%;">レポート</td> <td style="width: 10%;">15P</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>ノート</td> <td>2P</td> <td>レポート</td> <td>10P</td> </tr> <tr> <td>3年</td> <td>ノート</td> <td>2P</td> <td>レポート</td> <td>12P</td> </tr> </table>	1年	ノート	4P	レポート	15P	2年	ノート	2P	レポート	10P	3年	ノート	2P	レポート	12P
1年	ノート	4P	レポート	15P													
2年	ノート	2P	レポート	10P													
3年	ノート	2P	レポート	12P													
104 数研	観点 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学習内容の導入で、復習（Qマーク）を提示し、学習の手がかりになる問いかけを示している。</li> <li>・「ふりかえり」として、これまでに学んだ関連することがらを示している。</li> <li>・Qマークの問いの中で、誤りを指摘したり、正しくしたりする活動を促している。</li> </ul>															

観点 2	<p>・議論や作業を通して考える「Q」,「考えよう」,「やってみよう」で,調べたり,試したり,見つけたり,説明したりする内容が取り上げてあり,問題解決的な学習に主体的に取り組めるようにしてある。</p> <p>○巻末及び別冊の問題数(各単元の学習を活用する問題,複数の単元や領域の学習を総合的に活用する問題,生活の中で活用する問題,興味・関心や習熟に応じた問題等)</p> <p>1年 37, 2年 35, 3年 40, 合計 112</p> <p>○ヒントやポイントを示した吹き出し等の数(1年「平面図形」,2年「三角形や平行四辺形の基本的な性質」,3年「図形の相似」)</p> <p>1年 5, 2年 5, 3年 10, 合計 20</p>															
観点 3	<p>(構成・配列)</p> <p>・3年2次方程式の解法が「因数分解」→「平方根の考え」→「解の公式」の配列になっている。(分量)1年ページ数240P,2年ページ数189P,3年ページ数245P</p>															
観点 4	<p>・イラスト,写真の数と具体例</p> <p>2年「1次関数」</p> <p>○イラスト数 9</p> <p>・水槽に,それぞれ空の状態から毎分2cmの割合で水を入れる図,満水の状態から毎分2cmの割合で水面が低くなるように水を抜く図,15cmまで水が入っている状態から毎分2cmの割合で水を入れる図</p> <p>・縦2cm,横4cmの長方形の周上を点Pが毎秒1cmの速さで動く図 など</p> <p>○写真数 5</p> <p>・熱帯魚 ・神戸市中央区のスロープ</p> <p>・ガスバーナーで水を熱する様子</p> <p>・ダイヤグラム ・電車</p>															
観点 5	<p>・考察や作業を通して,新しいことがらを見いだしたり,周囲の人と話し合いながら,身のまわりの問題を解決したりする学習ができるように工夫している。</p> <p>&lt;具体例&gt;</p> <p>○2年「文字式の利用」</p> <p>偶数と奇数をたし合わせたとき,その和は偶数になるか,それとも奇数になるか予想し,そのことについて話し合うことで言語活動が行えるようにしている。</p> <p>・ノート指導やレポート作成の扱い,記述ページ数について</p> <p>&lt;扱い&gt;</p> <p>○各学年の巻頭の「ノートの作り方」でノート指導を扱っている。また単元中にノートを書く際に気をつける点,よりよい書き方などを同時に示している。第1学年1章末に,「その章で学んだことをふり振り返りノートにまとめるようにしましょう。」の設問がある。また,第1学年巻末には,アルファベットの筆記体を示し,文字,記号,数字の区別を示している。</p> <p>&lt;記述ページ数&gt;</p> <table border="0" data-bbox="507 1809 1118 1928"> <tr> <td>1年</td> <td>ノート</td> <td>7P</td> <td>レポート</td> <td>0P</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>ノート</td> <td>3P</td> <td>レポート</td> <td>0P</td> </tr> <tr> <td>3年</td> <td>ノート</td> <td>2P</td> <td>レポート</td> <td>0P</td> </tr> </table>	1年	ノート	7P	レポート	0P	2年	ノート	3P	レポート	0P	3年	ノート	2P	レポート	0P
1年	ノート	7P	レポート	0P												
2年	ノート	3P	レポート	0P												
3年	ノート	2P	レポート	0P												

116 日文	観点1	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学習内容の導入で、復習（Qマーク）を提示し、学習の手がかりになる問いかけを示している。</li> <li>「まちがいの例」で、誤りを指摘し、正す活動を促している。</li> <li>「チャレンジ」を「問」の後に配置し、さらに練習するための問題を示している。</li> <li>章末に、「くり返し練習」を設定し、学習内容の定着を図る問題を示している。</li> </ul>
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> <li>「やってみよう」や巻末の「数学マイトライ」で、学んだことを活用して考えたり、より深く調べたりする内容が取り上げてあり、興味・関心に応じて、問題解決的な学習に主体的に取り組めるようにしてある。</li> <li>○巻末及び別冊の問題数（各単元の学習を活用する問題、複数の単元や領域の学習を総合的に活用する問題、生活の中で活用する問題、興味・関心や習熟に応じた問題等） 1年 49, 2年 36, 3年 41, 合計 126</li> <li>○ヒントやポイントを示した吹き出し等の数（1年「平面図形」、2年「三角形や平行四辺形の基本的な性質」、3年「図形の相似」） 1年 5, 2年 5, 3年 4, 合計 14</li> </ul>
	観点3	<p>（構成・配列）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3年2次方程式の解法が「因数分解」→「平方根の考え」→「解の公式」の配列になっている。（分量）1年ページ数246P, 2年ページ数195P, 3年ページ数233P</li> </ul>
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> <li>イラスト、写真の数と具体例 2年「1次関数」 ○イラスト数 8</li> <li>10cmの高さまで水が入った水槽に、1分間に5cmの割合で水を入れる図</li> <li>縦2cm, 横4cmの長方形の周上を点Pが毎秒1cmの速さで動くときに見える△APDのかたちに変化する図など</li> <li>○写真数 6</li> <li>・ピーカーで水を加熱する実験の様子 ・稲光の様子 ・電球型蛍光灯とLED電球</li> <li>・バリアフリーのスロープ ・勾配を示す道路標識</li> <li>・気象庁のホームページ</li> </ul>
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> <li>式や図、表、グラフなどを、自分の考えを伝える道具として使い、学んだ内容を使って、自分の考えを伝え合う活動ができるように工夫している。</li> <li>&lt;具体例&gt; ○2年「文字式の利用」 数の性質がいつも成り立つことを、文字を使って説明することで、自分の考えを伝え合う活動が行えるようにしている。</li> <li>・ノート指導やレポート作成の扱い、記述ページ数について</li> <li>&lt;扱い&gt; ○各学年の巻末で「ノートの工夫」を示している。 ○各学年の巻末では、生徒のレポートを例示し、書き方を説明している。 また、第1学年「資料の活用」で、調査したことをレポートにまとめた具体例がある。</li> <li>&lt;記述ページ数&gt; 1年 ノート 1P レポート 6P 2年 ノート 1P レポート 2P 3年 ノート 1P レポート 4P</li> </ul>

観点1	基礎・基本の定着
観点2	主体的に学習に取り組む工夫
観点3	内容の構成・配列・分量
観点4	内容の表現・表記
観点5	言語活動の充実

教科名	理科
第1推薦	6 1 啓林館
第2推薦	2 東書

(理科) 各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる観点	主たる特徴
2 東書	観点1	理解を深める工夫として、各章のはじめに「これまでに学んだこと」という枠組を設けて、既習事項や他教科との関連を示している。
	観点2	ものづくりの内容及び数が比較的多く(15)、各学年4から7の掲載がある。
	観点3	各学年の分量は平均的であり付録が数ページついている。補充的な問題は少なく、発展的な学習の読み物や観察、実験等は平均的である。
	観点4	巻頭資料では写真を多用している。巻末資料の分量は少ない。身近な現象の写真を大胆に使い単元の導入に用いている。1学年の文字は他学年より大きい。
	観点5	キャラクターなどにより、興味を持たせるための工夫があり、レポートの作成について系統的な説明が示してある。
4 大日本	観点1	1学年の観察実験の数が多いため、精選・重点化が必要である。「単元末問題」では読解力問題を通して基礎・基本の定着が図られている。
	観点2	ものづくりの内容及び数が大変多く(23)、各学年6から9の掲載がある。
	観点3	各学年とも分量が多い。単元末の補充的な問題のページ数は平均的である。発展的な学習の読み物や観察、実験等が多い。
	観点4	巻末資料における課題研究・自由研究のページ数と課題例が多い(34)。
	観点5	ポイントとなる部分で、「話し合ってみよう」の項目を設け、話し合い活動を促している。レポート例示の数は少ない(6)。
11 学図	観点1	各章の導入部に「これまで学んできたことをチェックしよう」という枠組を設けるとともに「単元末問題」で基本的な問題演習を通して基礎・基本の定着を図ろうとしている。
	観点2	ものづくりの内容及び数が比較的多く(14)、各学年4から6の掲載がある。
	観点3	各学年とも分量は多い。補充的な問題は少ない。発展的な学習の読み物や観察、実験も少ない。
	観点4	3学年の巻末資料は多い(35)。既習内容に関連した写真を単元の導入に用いている。

	観点 5	よくない例のグラフの表記があり，グラフの書き方がよくわかる。レポート例示の数は少ない(6)。
17 教 出	観点 1	単元末に「要点と重要用語の整理」をまとめとして掲載し，さらに「基礎・基本問題」から「活用・応用問題」へと学力向上が図られている。また，コラムを設けて生活や科学史，発展的な内容を扱っている。
	観点 2	ものづくりの内容及び数が全体的に少ない(11)が，各学年3から4の掲載がある。
	観点 3	各学年とも分量が少ないが，付録が数ページついている。補充的な問題のページ数が多い。発展的な学習の読み物や観察，実験等は平均的である。
	観点 4	教科書本文及び補足説明等の文字が小さい。身近な現象の写真とキャラクターを単元の導入に用いている。3年巻末資料が多い(45)。
	観点 5	「わたしのレポート」としてよいレポートの例示を記載している。
61 啓林館	観点 1	別冊「マイノート」に観察，実験のワークシートや「基本のチェック」を設けることにより，用語，観察・実験，要点の確認がコンパクトにできるようになっている。また，細やかなマーク表示により安全確保と注意喚起を図っている。
	観点 2	ものづくりの内容及び数が比較的多く(14)，各学年2から9の掲載がある。また，県内教材写真の取扱数が他社の0から2に対し，11と最も多い。
	観点 3	各学年の別冊を合わせた分量はとても多い。補充的な問題は別冊に掲載され扱いやすい。発展的な学習の読み物や観察，実験等は少ない。
	観点 4	3年巻末資料では，薬品の取扱いや地域・環境資料など，万遍なく掲載(33)され充実している。単元末の「学習のまとめ」などでは，文字色が工夫され，添付の青色シートを使って基本事項の振り返りができる。
	観点 5	別冊「マイノート」のサイエンスアプローチで観察や実験で得たことをまとめることによって，科学的思考力の育成につなげようとしている。レポートの一部または全部を多く示している(21)。



観点1	基礎・基本の定着
観点2	主体的に学習に取り組む工夫
観点3	内容の構成・配列・分量
観点4	内容の表現・表記
観点5	言語活動の充実

教科名	音楽（一般）
第1推薦	27 教芸
第2推薦	17 教出

（音楽 [一般]）各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる 観点	主 たる 特 徴
17 教出	観点1	共通事項に示されている用語や記号を教材ごとに提示している。
	観点2	活動1，活動2・・・と学習過程を示している。
	観点3	教材を3つの柱に分けて配置している。
	観点4	折り返した資料のページや大きな写真を掲載している。
	観点5	聴き取ったことや感じたことを書き込み伝えあう課題を提示している。
27 教芸	観点1	基本的な学習内容を各学年を通じて段階的に掲載している。
	観点2	各学年とも主体的に考え，取り組む課題を提示してある。
	観点3	創作を表現や鑑賞の活動と関連づけて配列している。
	観点4	写真やイラストを取り入れて、分かりやすく整理している。
	観点5	曲を聴いてよさを発表し合うプレゼンテーションの課題が設定してある。

山県教科用図書採択地区選定委員会

観点1	基礎・基本の定着
観点2	主体的に学習に取り組む工夫
観点3	内容の構成・配列・分量
観点4	内容の表現・表記
観点5	言語活動の充実

教科名	音楽（器楽合奏）
第1推薦	27 教芸
第2推薦	17 教出

（音楽 [器楽合奏]）各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる 観点	主 たる 特 徴
17 教出	観点1	各楽器の基本的奏法が、写真を使って示されている。
	観点2	「名曲旋律集」で各楽器のソロの楽譜を掲載している。
	観点3	様々なジャンルの曲を、アンサンブル曲として掲載している。
	観点4	キャラクターの吹き出しで演奏の練習ポイントを示している。
	観点5	器楽の活動において、奏する際の工夫する視点を記述している。
27 教芸	観点1	各楽器の基本的奏法が、写真を使って示されている。
	観点2	「アンサンブルセミナー」でアンサンブルのポイントを取り上げている。
	観点3	基本的な楽器に加え、12種類の打楽器を取り上げている。
	観点4	キャラクターの吹き出しで演奏のポイントやヒントを示している。
	観点5	グループ活動をする上で工夫する視点と活動の手順が示されている。

観点1	基礎・基本の定着
観点2	主体的に学習に取り組む工夫
観点3	内容の構成・配列・分量
観点4	内容の表現・表記
観点5	言語活動の充実

教科名	美術
第1推薦	116 日文
第2推薦	9 開隆堂

(美術) 各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる観点	主たる特徴
9 開隆堂	観点1	題材ごとにふりかえりに4観点「美術への関心・意欲・態度の目標」「発想や構想の能力」「創造的な技能」「鑑賞の能力」を色分けして示し確認するようにしている。基礎的な技法や知識などの習得させたい内容を黄緑色の四角の中に示している。
	観点2	図や写真とともに発想や制作の手順とポイントを示している。生徒作品と作者の言葉を載せている。生徒の制作風景等活動場面を取り上げている。制作中の手元の写真を載せている。
	観点3	題材を分野等に分けて配列している系統順ではない。「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」「ガイダンスや資料的な内容」
	観点4	折り込み作品のサイズが大きい。折り込みに「ガイダンス」や「資料的な内容」が示されている。
	観点5	題材ごとに鑑賞のきっかけとなる問いかけなどが示してあり、言語活動を促している。作品紹介や、作品制作のための資料等、ワークシートを用いた事例を掲載している。「比べてみよう(第1学年)」や「原寸ギャラリー(全学年)」で鑑賞を通して言語活動の充実を図っている。いくつかの生徒作品には作者のコメントが付してある。
38 光村	観点1	題材ごとに身につけたい力を「美術への関心・意欲・態度の目標」「発想や構想の能力」「創造的な技能」「鑑賞の能力」の4観点に沿った「目標」として示している。学習後に目標が達成できたらチェックする□を設けている。巻末の資料ページには、学習を支える資料として学習に関する技法や用具の使い方が載っている。
	観点2	図や写真とともに発想や制作の手順とポイントを示している。生徒作品と作者の言葉を載せている。生徒の制作風景等活動場面を取り上げている。
	観点3	題材を分野等に分けて配列している。「はじめに」「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」「学習を支える資料」
	観点4	折り込み作品のサイズが大きい。「特別展示室」のページは観音開きになっている。巻末折り込みに「資料的な内容」が示されている。

	観点5	題材ごとの目標の中に「～について話し合おう」と設定しており、言語活動を促している。いくつかの生徒作品には作者のコメントが付してある。アイディアスケッチやレポート等、ワークシートを用いた事例を掲載している。第1学年、第2・3学年の最初のページ「感じたことを話し合おう」で、お互いの感じたことを交流することを呼びかけている。「原寸大で鑑賞しよう（全学年）」に鑑賞の視点を示している。
116 日文	観点1	題材ごとに「学びのねらい」として「美術への関心・意欲・態度」「発想や構想」「創造的な技能」「鑑賞」に関する4観点を色分けしたマークとともに示している。学習内容のポイントを題材ごとに示している。
	観点2	図や写真とともに発想や制作のポイントを示している。学習の「POINT」が示されている。生徒作品と作者の言葉を載せている。生徒の制作風景、活動風景を載せている。また、目線を意識している。
	観点3	題材を分野等に分けて配列している。「オリエンテーション」「デザインや工芸など」「学習に役立つ資料」
	観点4	折り込み作品のサイズが大きく壮大。「教科書美術館」のページは観音開きになっている。各冊の巻末に、主に題材に関する資料が掲載されている。
	観点5	「学びのねらい」に鑑賞の観点が設定しており、言語活動を促している。いくつかの生徒作品には作者のコメントが付してある。自分の考えを説明するアイディアスケッチやレポートを掲載している。「教科書美術館」には「～について話し合いましょう」と記しており、話し合いを促す記述がある。

観点1	基礎・基本の定着
観点2	主体的に学習に取り組む工夫
観点3	内容の構成・配列・分量
観点4	内容の表現・表記
観点5	言語活動の充実

教科名	保健体育
第1推薦	2 東書
第2推薦	2 2 4 学研

(保健体育) 各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる観点	主たる特徴
2 東書	観点1	・各章の最後に「確認の問題」「活用の問題」が設けてあり、基礎基本の定着に活用できるよう工夫されている。
	観点2	・「資料」「実習資料」「やってみよう」「考えてみよう」の中で、実習・調査のための資料や例の掲示や実生活・実社会に関連付けた学習活動の提示を行い、生徒が主体的に学習できるよう工夫されている。
	観点3	・各学年で学習する内容を前半を「保健編」、後半を「体育編」でまとめ、各学年の学習内容の順序で構成し、各学年で学習する範囲が明確になっている。
	観点4	・「リンク」「他教科」として関連する内容を表記してある。 ・各所にマスカットキャラクターを使った補足説明を表記している。 ・学習に関連するウェブサイトのアドレスが紹介されている。
	観点5	・教科書に直接、自分の考え等を書くスペースがあり、思考力や表現力を高められる工夫がされている。
4 大日本	観点1	・単元によって、「学習を活かして」の中で、学習の振り返りをさせる活動が提示されている。
	観点2	・「トピックス」「トピックス+ <sup>プラス</sup> 」として、学習内容と関連深い話題、読み物を数多く掲載し、学習への興味・関心を高める工夫がされている。 ・「資料」「学習を活かして」の中で、実習・調査を行うための方法や手順を写真やイラストで示し、体験的な学習の実施のための工夫がされている。
	観点3	・前半を体育編3、後半を保健編4で構成されている。 ・主に章末に発展的な資料を掲載している。
	観点4	・資料が大きく掲載されている。 ・主に章末に発展的な資料を掲載している。
	観点5	・「学習を活かして」の中で、既習した内容を活用した『話し合う活動』や『説明をする活動』などの学習活動について記載し、言語活動を充実させる工夫がされている。
50 大修館	観点1	・重要語句はキーワードで示し、「トライ」で学習の振り返りを行う問いが掲示され、基礎基本の定着を図るための工夫がされている。

	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「コラム」「事例」「トピックス」として、学習内容と関連し、その理解を助ける話題を数多く掲載し、学習への興味・関心を高める工夫がされている。</li> <li>・「クエスチョン」の中で、実生活を振り返る学習、「トライ」の中で、実生活・実社会に関連付けた学習活動を提示して、実践力を高める工夫がされている。</li> </ul>
	観点 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前半を体育編 3，後半を保健編 4 で構成されている。</li> <li>・「チャレンジ」「コラム」として、おもに章末に発展的な資料をまとめて掲載している。</li> </ul>
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容に関連したウェブサイトのアドレスが紹介されている。</li> <li>・各ページの重要語句が「キーワード」として表記されている。</li> </ul>
	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「Try」の中で、既習事項の振り返りがしやすいように、個人思考を行ったり、理由を挙げて説明させたりする学習活動を提示し、言語活動の充実を図る工夫がされている。</li> <li>・「チャレンジ」の中で、既習事項を進展させ、学びを深めさせる学習課題が設定されている。</li> </ul>
224 学 研	観点 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「コラム」の中で、具体例を多数挙げて、学習内容に関する科学的な理解を深められるよう工夫されている。</li> <li>・各章末に「用語の確認」「基礎の完成」「活用の問題」が掲載されており、基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図る工夫がされている。</li> </ul>
	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元ごとの「ウォームアップ」「活用しよう」「エクササイズ」の中で、実生活を振り返る学習活動を行う。</li> <li>・各章末の「探求しようよ！」において、既習事項や実生活・実社会と関連した実習・調査や学習活動例を掲載し、体験的な学習を実施し、実践力を高める工夫がされている。</li> </ul>
	観点 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前半を保健編 4，後半を体育編 3 で構成されている。</li> <li>・各章末に「エクササイズ」や「活用しよう」など、発展的な学習内容や学習活動例をまとめて掲載している。</li> </ul>
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「リンク」で参考になるウェブサイトへのガイドを表記している。</li> <li>・学習内容に関連付けた写真やイラストを掲載している。</li> </ul>
	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元ごとに、言語活動や協働的な学習活動が出来るよう工夫されている。さらに、それぞれの活動に、『言語』『協働』などのマークにより、提示している学習活動が、どのような活動であることを示している。</li> <li>・「実習」や「探究しようよ！」の中で、資料を読み解く課題やコミュニケーション能力を高めるような言語活動を充実させる工夫がされている。</li> </ul>

観点1	基礎・基本の定着
観点2	主体的に学習に取り組む工夫
観点3	内容の構成・配列・分量
観点4	内容の表現・表記
観点5	言語活動の充実

教科名	技術・家庭（技術分野）
第1推薦	2 東書
第2推薦	9 開隆堂

（技術・家庭 [技術分野]）各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる観点	主たる特徴
2 東書	観点1	・学習のまとめの工夫として、章末の「学習のまとめ」が「学習を振り返ろう」「学習をしたことを確かめよう」「生活に生かそう」の3部構成としてある。学習内容の定着を自己評価し、確認できる工夫がされている。また、各小単元に「まとめよう」のコーナーを設け、学習の振り返りが細かくできるように工夫されている。
	観点2	・興味・関心を高める工夫として、各小単元に入るときに「考えてみよう」「調べてみよう」「やってみよう」「話し合ってみよう」という投げかけがされている。 ・章末のまとめや各章の単元内に「生活に生かそう」の項目やコーナーを設け、学習内容を深めたり活用したりする問いかけがされている。
	観点3	・ガイダンスとして12ページ、「材料と加工に関する技術」70ページ、「エネルギー変換に関する技術」52ページ、「生物育成に関する技術」40ページ、「情報に関する技術」56ページ。 ・「材料と加工に関する技術」において、「製図」に関わる学習内容が同じページに掲載されており、それぞれの図法の特徴が比較しやすく理解もしやすいように記載されている。 ・教科書の末尾に、「技術分野の学習を終えて」として、4領域のまとめや「技術」教科の学習と自分達の生活とのかかわりを考えさせる項目を4ページにわたって設け、コンピュータの使い方も12ページにわたって示されている。また、「防災手帳」も載せ「技術・家庭科」を生活に生かす工夫もされている。
	観点4	・学習内容を効果的に標記するためのマークが多用されている。「リンク」「他教科」「小学校」というマークで、他の学習内容や他教科・小学校の学習内容との関連を示している。また、「消費者」「防災」のマークがあり、自分の生活との関連が図られるようにされている。
	観点5	・デジタル作品の実習例では、プレゼンテーション・ビデオ編集・Webページ作成手順の紹介が、見開き2ページで示されている。また、その手順の「修正」段階では他生徒との相互評価ができるように、評価の視点が示されている。 ・各領域の最終章「評価・活用」では、学習した技術の内容を「プラス・マイナス面」で整理し、その結果を交流しあう「話型」も示されている。
6 教図	観点1	・学習のまとめの工夫として、章末が「まとめ」「章末問題」の2部構成としてある。学習内容の振り返りと自己チェックができるように工夫されている。

	観点 2	・興味・関心を高める工夫として、各単元のところどころに「考えよう」「調べよう」「やってみよう」という投げかけがされている。
	観点 3	・ガイダンス的内容として 6 ページ、「材料と加工に関する技術」70 ページ、「エネルギー変換に関する技術」50 ページ、「生物育成に関する技術」52 ページ、「情報に関する技術」56 ページ。 ・「材料と加工に関する技術」において、「製図」に関わる学習内容が 3 ページにわたって図示されているが、書き方の説明や図や文章記述はない。 ・教科書の末尾に、4 領域に関わる「資料」が 8 ページにわたって示されている。
	観点 4	・学習内容を効果的に標記するマークは主としては 4 種類である。学習内容の指示等に「調べよう」「やってみよう」「考えよう」という項目が設けられているが、全ての小単元でそう示されているものではない。
	観点 5	・デジタルものづくりの実習例では、ビデオ編集・プレゼンテーション・Web ページ作成手順が 2～3 ページで示されている。プレゼンテーション作成では、「評価シート」の例を示し、生徒の相互評価ができるようにされている。
9 開隆堂	観点 1	・学習したまとめの工夫そして、章末の「学習のまとめ」が「学習をふり返ろう」「生活に生かそう」の 2 部構成とされている。振り返りは自己評価ができる工夫がされている。また、各単元にも「ふり返り」のコーナーを設け、学習のふり返りが細かくできるようにされている。
	観点 2	・興味・関心を高める工夫として、各小単元に入るときに「考えてみよう」「調べてみよう」「観察してみよう」「話し合ってみよう」「見つけてみよう」「観察してみよう」という投げかけがされている。 ・章末のまとめに「生活に生かそう」の項目を設け、学習内容を深めたり活用したりする問いかけがされている。
	観点 3	・ガイダンス的内容として 18 ページ、「材料と加工に関する技術」66 ページ、「エネルギー変換に関する技術」40 ページ、「生物育成に関する技術」36 ページ、「情報に関する技術」64 ページ。 ・「材料と加工に関する技術」において、「製図」に関わる学習内容が 2 ページにわたって掲載されており、それぞれの図法の特徴が比較でき、理解しやすく記述されている。 ・教科書の末尾に、「進んで技術を評価し生活をよりよくする」として、身の回りの「技術」や「技術」と自分との将来的なかかわりについて話し合う項目を 6 ページにわたって設けている。また、「資料」としてコンピュータの利用について 12 ページにわたって掲載されている。
	観点 4	・学習内容を効果的に標記するためのマークが多用されている。「リンク」というマークで、他の学習項目や家庭分野との関連が示されている。「豆知識」というマークがほとんどのページで使われ、学習内容に関連があるちょっとした知識が得られるようにされている。「探求」というマークを用い、学習内容を深めたり広げたりする問いかけがされている。
	観点 5	・デジタル作品の制作・発表の実習例では、プレゼンテーションが見開き 2 ページで、Web ページと動画作品の 2 つ合わせて見開き 2 ページで示されている。特に、プレゼンテーション作成では、「のぞましいプレゼンテーションとは？」として、発表する内容や発表する方法について箇条書きで丁寧に示されている。



観点1	基礎・基本の定着
観点2	主体的に学習に取り組む工夫
観点3	内容の構成・配列・分量
観点4	内容の表現・表記
観点5	言語活動の充実

教科名	技術・家庭（家庭分野）
第1推薦	2 東書
第2推薦	9 開隆堂

(技術・家庭 [家庭分野]) 各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる観点	主たる特徴
2 東書	観点1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統と文化に関する内容に「伝統・文化」のマークを付け、写真やイラストなどを掲載し事例を紹介している。</li> <li>・巻頭資料において、「持続可能な社会を目指して」を掲載している。</li> </ul>
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各章末の「学習のまとめ」に、A, B, Cの自己評価、確かめ問題、生活へ生かすことへの提案がなされている。</li> <li>・調理実習具体例 47, 製作実習具体例 13</li> </ul>
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイダンス 20ページ</li> <li>・食生活, 衣住生活(衣, 住), 家庭・家族, 消費生活の順である。</li> </ul>
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習を深めるうえで役に立つ内容等を「資料」のマークで、ほかの章などとの関連については「リンク」, 他教科との関連については「他教科」のマークで示している。</li> <li>・ページの下にQ&amp;Aを載せ、興味・関心を高めるように工夫している。</li> </ul>
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生活の課題と実践」に「まとめと発表の仕方」を記載している。</li> <li>・言葉のページを設け、用語の独特の言い回しや名称を説明している。</li> </ul>
6 教図	観点1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統と文化に関する写真やイラストなどを掲載している。</li> <li>・「いま, わたしたちにできること」という内容において, 3Rの実践例について示して説明している。</li> </ul>
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各章末の「学習のふり返し」の間「キーワードの確認をしよう」では, 問いに答えることによって学習を振り返らせている。</li> <li>・調理実習具体例 33, 製作実習具体例 6</li> </ul>
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイダンス 9ページ。</li> <li>・家族・家庭, 食生活, 衣住生活(住, 衣), 消費生活の順である。</li> </ul>
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学习上参考となる資料等を「参考」や「コラム」のマークで表している。</li> <li>また技術分野との関連を「リンク」のマークで示している。</li> </ul>
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生活の課題と実践」に「まとめる・発表する」を掲載している。</li> </ul>

9 開隆堂	観点1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統と文化に関する内容に「伝統文化」のマークを付け、写真やイラストなどを掲載し事例を紹介している。</li> <li>・巻頭資料において、「持続可能な社会を目指して」を掲載している。</li> <li>・さらに、各内容の最後に「持続可能な社会をつくる」とし、考えることのできるまとめのページを設定している。</li> </ul>
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各章末の「学習のまとめ」として、はい・いいえの二択の自己評価と、自分の生活の課題を見つけ、今後に生かしていきたいことについての記入欄を設定し、交流に活用できるようにしている。</li> <li>・調理実習具体例 47，製作実習具体例 9</li> </ul>
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイダンス 10ページ。</li> <li>・家族・家庭，食生活，衣住生活（住，衣），消費生活の順である。</li> </ul>
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の参考となる資料や解説を「参考」のマークで，他の学習項目や技術分野などとの関連については「リンク」のマークで，探究していく内容については「探究」マークで示している。</li> <li>・ページの下に豆知識を載せ，興味・関心を高めるように工夫している。</li> </ul>
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生活の課題と実践」に「結果をまとめる」を掲載している。</li> <li>・巻末に，言語活動を充実するための取組例を示している。</li> </ul>

観点1	基礎・基本の定着
観点2	主体的に学習に取り組む工夫
観点3	内容の構成・配列・分量
観点4	内容の表現・表記
観点5	言語活動の充実

教科名	英語
第1推薦	2 東書
第2推薦	3 8 光村

(英語) 各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる観点	主たる特徴
2 東書	観点1	「まとめと練習」で、「確かめよう」は肯定文・否定文・疑問文と基本文が提示してあり、「やってみよう」は2種類の練習問題がある。
	観点2	2ページで構成される各単元の各部分の右側のページの基本練習と <b>Speak</b> に、ペア等の活動が位置付けられている。対話例を示し、応答を助けるイラストがほぼ毎回添えられている。また、冒頭や各単元の間にも位置付けられている。
	観点3	第1学年導入期 (Hi, English! , 11項目, 17ページ)
	観点4	学習や表現のポイントを示す「学び方コーナー」や、項目ごとに分類した「1～3年 基本文一覧」を掲載している。
	観点5	4技能を統合的に活用させる言語活動として、 <b>Presentation</b> を設定している。
9 開隆堂	観点1	「英語のしくみ」で文法事項を細かくわけて説明がしてあり、それぞれに練習問題がついている。
	観点2	2ページで構成される各単元の各部分の左側のページの <b>Speak</b> と <b>Try</b> に、ペア等の活動が位置付けられている。対話例を示し、応答を助けるイラストや表が多く添えられている。また、冒頭や各単元の間にも位置付けられている。
	観点3	第1学年導入期 (Let's start, Program1, 10項目, 18ページ)
	観点4	巻末に「英語のつづり字と発音」や『英語で「できるようになったこと」リスト』を掲載している。
	観点5	4技能を統合的に活用させる言語活動として、 <b>My Project</b> と <b>Special Project</b> を設定している。
11 学図	観点1	「Check It Out」でこんな時にはこう言うという表現で細かな文法の説明・英文(色分け)が提示してある。
	観点2	2ページで構成される各単元の各部分の右側のページの <b>Speaking</b> に、ペア等の活動が位置付けられている。対話例を示し、応答を助けるイラストや表や写真がほぼ毎回添えられている。また、冒頭や各単元の間にも位置付けられている。
	観点3	第1学年導入期 (Pre lesson, Let's Star, 10項目, 15ページ)
	観点4	巻末に「位置」、「体、五感」などについての英語を絵とともに示した「 <b>More Words</b> 」や「つづりと発音」を掲載している。
	観点5	4技能を統合的に活用させる言語活動として、 <b>Chapter Project</b> と <b>Book Project</b> を設定している。

15 三省堂	観点1	「文法のまとめ」で lesson ごとに文法が簡潔にまとめてある。例文や絵を使って説明している。
	観点2	2ページで構成される各単元の各パートの右側のページの <b>Speak</b> （話してみよう）に、ペア等の活動が位置付けられている。対話例を示し、応答を助けるイラストや表が時々添えられている。また、冒頭や各単元の間にも位置づけられている。
	観点3	第1学年導入期 7項目, 14ページ
	観点4	巻末に「絵でわかる英語のしくみ」や「CAN-DO リスト」を掲載している。
	観点5	4技能を統合的に活用させる言語活動として、 <b>Project</b> を設定している。
17 教出	観点1	「英語のしくみ」で例文を示し、英語と日本語に色をつけてわかりやすく説明してある。
	観点2	2ページで構成される各単元の各パートの右側のページの <b>Speak</b> に、ペア等の活動が位置付けられている。対話例を示し、応答を助けるイラストや表や写真が多く添えられている。また、冒頭や各単元の間にも位置づけられている。更に、教科書とは別冊の <b>Essentials</b> が付属しており、その中の <b>Plus Dialog</b> や <b>Plus Activity</b> において、多くのペアでの対話活動が単元順に活用できるようになっている。
	観点3	第1学年導入期 ( <b>Spring board</b> , 10項目, 16ページ)
	観点4	巻末に「Can-Do 自己チェックリスト」を掲載しており、別冊として、36ページの冊子「 <b>Essentials</b> 」をつけている。
	観点5	4技能を統合的に活用させる言語活動として、 <b>Project</b> を設定している。
38 光村	観点1	「 <b>Language Focus</b> 」の「整理しよう」では例文と説明、「確認しよう」では会話形式や適語補充等多様な練習問題がある。またテキストを再度見返す <b>Grammar Hunt</b> がある。
	観点2	単元の各パート後の <b>Try It!</b> の中の <b>Drill</b> や <b>Speak</b> に、ペア等の活動が位置付けられている。対話例を示し、応答を助けるイラストや表や写真が多く添えられている。また、冒頭や各単元の間にも位置づけられている。更に巻末には、ペアの情報ギャップを生かした対話活動ができるような資料が載せられている。
	観点3	第1学年導入期 ( <b>Let's Enjoy English</b> , 8項目, 15ページ)
	観点4	「長い英文を読む」などについて学習や表現のポイントを示す「 <b>Your Coach</b> 」や3年間の学習を振り返る「基本文一覧」(和訳付)を掲載している。
	観点5	4技能を統合的に活用させる言語活動として、 <b>Go For It!</b> を設定している。